

伊東市の移動支援に おける活動報告

伊東市高齢者福祉課	主任主事	塚本 裕子
	生活支援コーディネーター	八木澤 恵子

自己紹介

塚本 裕子

担当事業

- 生活支援体制整備事業
- 介護予防事業
- 地域介護予防活動支援事業

など

八木澤 恵子

- 第1層生活支援コーディネーター
- 第2層生活支援コーディネーター
(中央圏域)
- 認知症地域支援推進員

～高齢者が地域で健やかに暮らし活躍できるまち～

第9次高齢者福祉計画

総人口	66,930人
高齢者数(率)	28,918人(43.2%)
後期高齢者数(率)	16,008人(23.9%)
独居高齢者数	6,813人 (令和2年4月現在)
日常生活圏域	5圏域
地域包括支援センター ※SCも同圏域に配置	直営1か所(中央) 委託4か所(宇佐美・伊東 ・小室・対島)

令和4年1月末現在



大室山



城ヶ崎吊り橋

伊東市

- 免許返納後の足の問題が切実
- 体操クラブへ参加できなくなった
- バス停までの坂が大変
- コロナ禍でフレイルになってきた

- 他課で実態調査を行っていたので、状況把握にとどまっていた
- 短期集中型予防事業の卒業生をつなげたい
- 観光地であること、交通空白地はない
→公共交通機関とのすみわけが必要

困っている人は多いが、どのように進めていいかわからない

令和2年度 県の壮年熟期事業を活用

期限が決まっている！
波に乗るしかない！！



期	日程	内容	講師
12月	12月24日 14:00 - 16:00	運転講習	伊原 啓
1月	1月13日 13:00 - 16:00	運転講習	伊原 啓
2月	2月12日 13:00 - 16:00	運転講習	伊原 啓
3月	3月12日 13:00 - 16:00	運転講習	伊原 啓



背景

セミナー（全3回）

※各SC、各包括支援センターも参加（受講者外）

R3.1.13 1回目	R3.6.16 2回目	R3.6.21 3回目
受講者：51名 内 容：移動支援に関する講義	受講者：39名 内 容：1回目の振りかえりと 事故に関する講義 グループワーク	受講者：37名 内 容：移動支援を始めるための 講義 グループワーク

運転ボランティア養成研修

R3.9.22 9.24

内容：適性検査、実地研修など
 自動車学校独自のカリキュラム
 （3時間30分）

受講者：34名（2日間の合計）

実証実験（まずは1か所から）

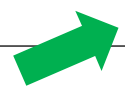
R3.12.1 R4.1.5

行 先：居場所（ショッピングセンター内）
 利用者：2名（田代・百両山地区）
 ボランティア：4名（赤坂地区）
 車両：ボランティア所有車



活動の概要

運営	<ul style="list-style-type: none"> 伊東市と市に登録するボランティアで運営 <p>※ボランティア：移動支援セミナー受講者、運転ボランティア養成研修修了者、付き添いボランティアなど</p>
従事者と役割	<ul style="list-style-type: none"> 運転ボランティアと付き添いボランティア（2人1組） 運転ボランティア（運転ボランティア養成研修修了者等） →介護事業所等の車両を使用する場合は運転ボランティアが伺います。 付き添いボランティア（どなたでも登録可） →利用者が車両を乗り降りする際の見守り、車両出発時の安全確認等 生活支援コーディネーター（日常生活圏域ごとに配置しています。） →ボランティアの方々へ利用者情報（利用日、目的地など）を連絡します。
目的地	<ul style="list-style-type: none"> 市内で開催している健康体操クラブ（市内18会場）、居場所（市内67か所）、認知症カフェのみ
対象者	<ul style="list-style-type: none"> 65歳以上で介護認定の要支援1・2の方と介護予防・日常生活支援総合事業の事業対象者
利用条件	<ul style="list-style-type: none"> 自己での参加や家族等での送迎が困難な参加者
車両	<ul style="list-style-type: none"> 介護事業所等所有またはボランティア本人の所有車両 <p>使用時間：車両を借りてから概ね1～2時間程度で返却する予定</p>
運行期間	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年12月1日から開始
運行日	<ul style="list-style-type: none"> 健康体操クラブ、居場所、認知症カフェの開催日
支援内容	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の介護予防事業への参加を目的とした外出支援
利用者負担	<ul style="list-style-type: none"> 無料
謝礼	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア：ボランティアポイントの交付
相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動については、市の担当課、生活支援コーディネーター
保険	<ul style="list-style-type: none"> 使用車両の保険+ボランティア活動保険（どちらも市で加入）



伊東市における移動支援の特徴

成 果

- セミナー及びボランティア養成研修の延べ参加者161名と意欲のある市民の発掘、育成ができた。
- 移動支援に関して興味のある市民や介護事業所から問合せがあり周知につながった。
- 実証実験の結果、運転ボランティア及び見守りボランティア並びに利用者みんなが満足する活動となり、本格運行に向けた土台作りができた。
- セミナーの周知、車両貸し出し許可、居場所の開催場所の提供など、民間事業所と連携して行うことができた。



課 題

- 市内各圏域で広めていきたい。
- ボランティア所有車両を使用した運行の検討する。
- 地元新聞やケーブルテレビなどのメディアを利用した周知活動を推進する。

今後の展開①

令和4年4月～共生型の居場所が立ち上がる予定。
通所Bと訪問Dを併せて実施できるよう整備していく。

今後の展開②

住民主体の移動支援活動（生活支援一体型で行先がスーパー、病院等）が2自治会で立ち上がるため、相談窓口として継続して支援していく。

今後の展開③

移動支援だけでなく民間事業所に移動販売の呼びかけも行っていく。

まとめ

メディア等を通じた、活動（頑張り）の見える化で誰かが声をかけてくれる。
実情に合った工夫を取り入れる。
移動支援で助かる方はもちろんいるが、他の支援方法にも目を向ける必要がある。

旧工房うさみ

多世代交流の居場所に

子ども育成団体 4月にオープン



来春のオープンに向け旧「工房うさみ」施設内を
チェックする江面さん（中央）＝伊東市半佐美

伊東市半佐美の旧「工房うさみ」が2022年4月、多世代が交流する常設型の居場所に生まれ変わる。市の子ども育成団体「下キドキわくわく冒険隊」の江面裕加里代表が、市から既存のプレハブ施設を借り受けて開所する。江面代表は「子どもからお年寄りまで、集まる人たちが生き生きと心豊かに過ごせる活動スペースにしたい」と意欲を語る。

平日午後1～3時が高齢者の居場所、放も食堂のノウハウを生かして、放課後の時間を子どもが自由に使えるように開放する。午前暮らした高齢者が顕は学校に行けない児童を合わせ、多世代児童、生徒向けに活用し、堂の施設を視野に入れている。場所は郷土公園の近く、気軽に情報交換できるスペースとして、子育て中の母親の利用も見込める。集まった資金

は施設修繕の他、学習に役立つ高性能パソコンなどの購入費に充てたい考えという。

ご清聴ありがとうございました
今後の展開とまとめ



函南町で自分らしく暮らすには？

～これからの暮らし方は、自分で考えていこう～

2022/3/2移動サービス事例報告会 資料

函南町厚生部福祉課 / 社会福祉法人函南町社会福祉協議会

今日のお話・自分らしく暮らすための「移動」

■生活支援体制整備事業（SC事業）による仕掛けから生まれた取組み

- ① **かなみおでかけサポート**（訪問D、通所B）
居場所に参加することで、自立した暮らしを継続しよう
- ② **ダイヤランド暮らしの応援隊**（訪問B）
生活支援と一体的に、暮らしの足を確保していこう

■住民自身の課題意識による自治会をベースにした取組み

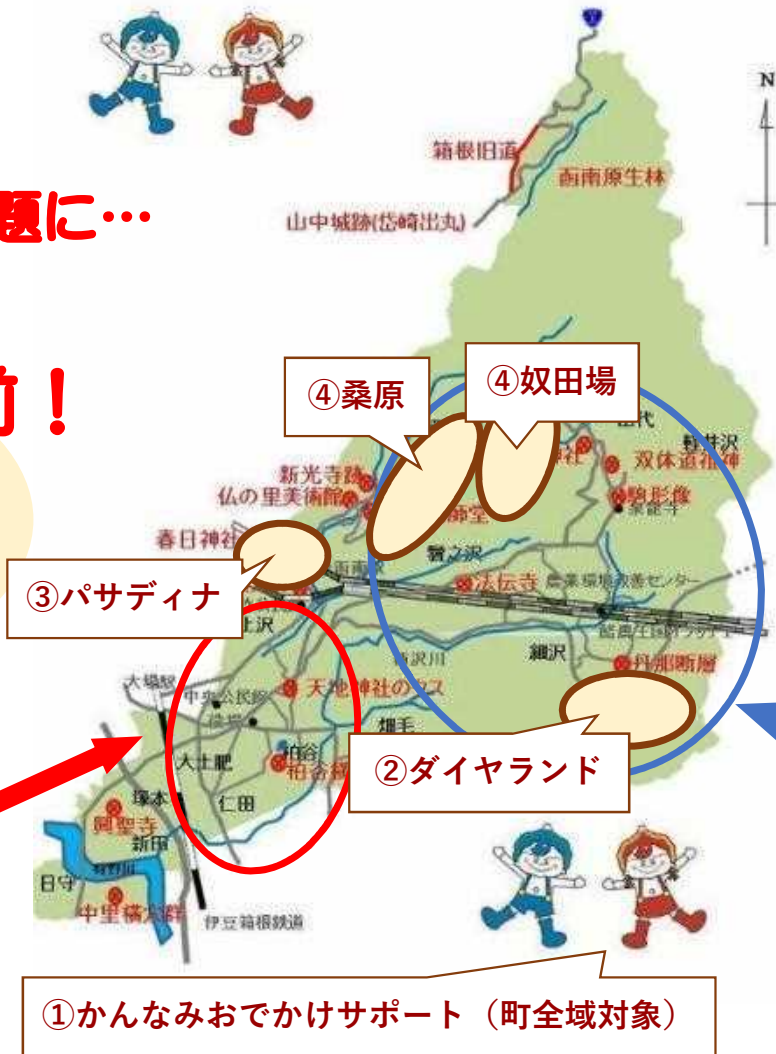
- ③ **パサディナ区による福祉自動車「パサディナ号」の運行**
自治会の事業として、区内住民運営の移動支援
- ④ **行政による移動支援「くわ里号」・「ぬたタク」**
SC事業の住民勉強会がもとに：デマンドタクシー試験運行の実施

函南町の地域性を見てみよう

住民アンケートでも、
勉強会でも“移動”はいつも課題に…

マイカー移動が当たり前！
移動の大変さは
山間地だけの
問題ではない

人口が集中するエリア
(約30,000人) 約80%



全体の人口
36,916人
高齢化率32.21%
(2022年1月末)

別荘地を含む
山間地エリア
(約3,000人)
約9%

協議体（名称:地域の支えあい協議会）

これまでの検討テーマ

- ①地域の見守り支援体制
- ②移動支援
- ③人財活用(2019～)
- ④住民・専門職の意識変容(2021～)
- ⑤複合課題を抱える世帯への支援(2021～)

テーマごと、参加メンバーは入替制（下線は常に参加）

住民（ボランティア活動者、民生委員、当事者）

配食サービス事業者、コンビニエンスストア、ガス事業者、新聞配達事業者、障害福祉サービス事業者、警察、消防、郵便局、社会福祉法人（特養）、宅建協会、ハローワーク、シルバー人材センター、ジョブステーション

行政（福祉課、企画財政課:コミュニティ担当、総務課:公共交通担当）

地域包括支援センター、社会福祉協議会、SC 等々

身体的効果
(身体活動の増加)



+

認知的効果
(情報交換・学習)



+

心理的效果
(安心・やる気)

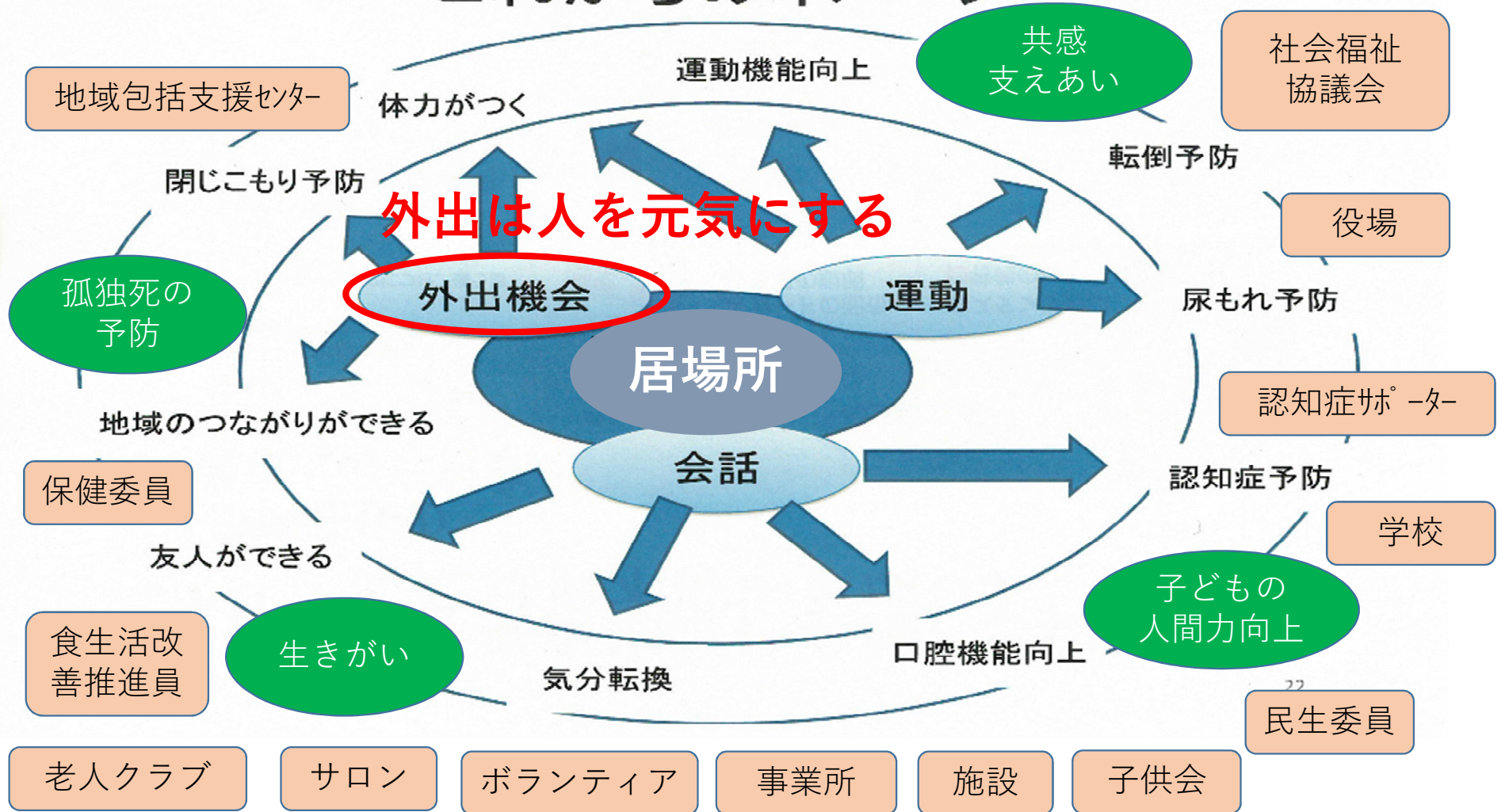


「社会参加」は「運動」や「栄養」と同じく、健康長寿に効果があります

函南町は、介護予防と支え合いの拠点となる、住民が運営する「居場所」を増やし、社会参加を促進することに力を入れています。

※ 函南町役場厚生部福祉課資料 (2020/2/5)

これからのイメージ



※ 函南町役場厚生部福祉課資料 (2020/2/5)

① かなみおでかけサポート

かなみおでかけサポート は
生活支援コーディネーター設置事業(町→社協委託)と二人三脚。

【2018年 7月】 運転ボランティア養成講座(SC事業)

修了者14名 (登録者14名)

【2018年 7月～】 ボランティア連絡会の開催

修了者14名とSC、行政と一緒に事業内容を検討

【2018年10月】 **かなみおでかけサポート試験運行開始**

週2回の運行から開始 (火・木)

(社協事業)

* 2022年1月時点 週5回 (月～金)

ポイント

行きたくなる場所
×
行きやすい方法？

居場所への参加 と 移動

この組み合わせが総合事業へ
(訪問型サービスD)



かなみおでかけサポートのしくみ (月～金運行/1台で運行中：2022年1月時点)

活動概要

高齢者等の居場所への参加を移動の面でサポートすることで、地域での自立した暮らしの継続を目的とした住民による会員制・有償の支えあい活動

ボランティアの役割

運転ボラ：車両の運転担当
同乗ボラ：

- バックの際の安全確認
- 利用会員の対応等
(踏み台設置・荷物持ち等)

【共通】居場所での参加支援
→謝礼200円/回は↑に対するもの

社協の役割

会員登録、運行調整 (送迎時間調整、ボラ活動シフト作成等)
ボラ養成、フォローアップ研修
ボラ連絡会の開催等

運営費

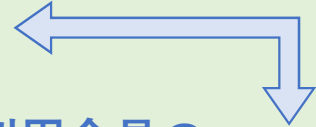
町総合事業による補助金
共同募金配分金
県社協助成金等を活用

①社協職員との情報共有・点検や消毒後の出発 使用する車両:社協車両

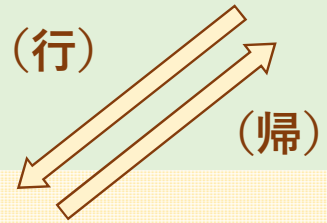


必ず運転・同乗ボラ2名体制で運行
(目的:安全に運行いただくため)

* 町総合事業補助対象 (自宅⇔居場所)



②利用会員の乗車場所をまわる 移動に対する料金は無料



③居場所に参加!

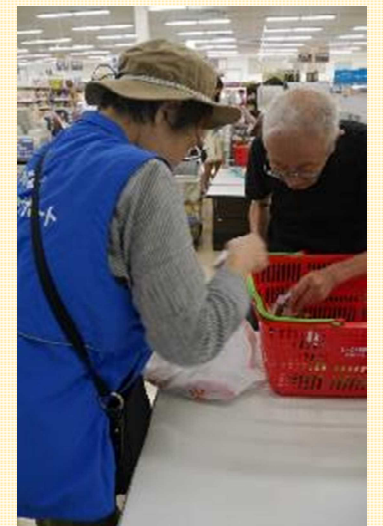


各曜日ごと利用会員を居場所(2ヶ所)へ送迎
居場所では、体操をしたりお茶をのんだり…
自分のしたいことを**選択**する



選択肢のひとつ 買い物に行こう!

毎日の食料雑貨の買い物にお困りの方向けに運行調整
希望者は居場所からスーパーへ
お買い物後は、再度居場所へ戻り合流



介護予防・日常生活支援総合事業 訪問型サービスD (函南町移動支援事業費補助事業)

利用対象者	町内在住の在宅生活者かつ要支援1又は要支援2又は事業対象者でケアマネジメントにおいて居場所へ送迎が必要とされた人が過半数であれば、他に誰が乗車しても案分せず補助が可能
実施主体	居場所を運営する団体とは別の団体
実施方法	自宅等から居場所への送迎に対する補助
補助対象経費	利用調整をする人の人件費 (ボランティアの人件費は含まない) 、燃料費、通信費、運転台帳等の印刷製本費及び消耗品費、車両リース代、車両の任意保険料
補助限度額	1日1台4,000円
周知活動	地域包括支援センター、地域ケア会議、ケアマネ連絡会、広報等

居場所送迎
の
目的地

社協運営の居場所

→通所B



いこう家つかもと（2022年1月末閉鎖）

*次年度新しい居場所を作るため準備中

別主体運営の居場所

→訪問D



カフェ城山（じょうやま）

自宅開放・毎週月～木、土（週5日）

*参加費200円

10:00～16:00

総合事業を活用することで
見えてきたことが…

移動のしくみを活用できない、多様な要因を抱えた人がいる



認知症の方



情報に触れていない



足腰が不安



主たる介護者のため
時間に余裕がない



移動経費の負担感

おでかけを諦めがちの方 … 外出へのハードルが上がる経験をされていることも多い

予定を忘れて
相手を怒らせた

知らなかった
ことで孤立した

他の人より
動きが遅い

被介護者を残して
外出するのは心配

必要最低限の
外出でガマン

おでかけとネガティブな経験が結び付く … おでかけする気力の低下にもつながる

作ったはいいけれど…

「予定を忘れる」
「支度ができない」
その方は利用
できなくてもいい？



何故

かなみおでかけサポートを
作ったのか？

→ 地域での自立した
暮らしを継続するため

おでかけサポート・居場所
それぞれの場面で、
ポジティブな経験への
サポートが必要だ！



かなみおでかけサポートで続けている、小さな心遣いの一例



の、前に

必要な方へ、 毎回の電話連絡

- ・ 外出予定のお知らせ
- ・ 支度の促し

ポジティブな経験の例

- ・ 外出に向けて余裕をもって支度ができる
- ・ 「待たせてごめんなさい」という気持ちを持たずに済む
- ・ 1週間の生活リズムが整う



その時に

外出時に手荷物・ 服装の様子を さりげなく確認

- ・ 「カギがない！」等不穩になられた際にお声がけ

- ・ 不安な気持ちを持たずに済む
- ・ ご本人が安心して外出できることで、送り出すご家族も余裕が生まれる



その時に

買い物希望の方に、 店舗での つかず離れずフォロー

- ・ 商品の場所のお知らせ
- ・ 時間管理など

- ・ つかず離れず、必要に応じたフォローに徹することで、自由な買い物時間を楽しむことができる
- ・ 声掛けすることで時間を守れるため、他の方にも気兼ねせずに済む

②ダイヤモンド暮らしの応援隊

ことの起こりは2019年度…

民生委員としての気付き

「ちょっとした暮らしの困りごと」に触れる日々
ゴミ出しに困っている
庭の草取りも一人では大変になってきたなど

×

住民として体感している 地域性

山間地に別荘地として開発された地域



生活支援コーディネーターへの相談につながる



発起人
現役の民生委員児童委員
郷 千恵子さん

ダイヤランド暮らしの応援隊 は 生活支援コーディネーター設置事業と二人三脚。

【2019年 8月】 区長や民生委員の方を対象としたWS開催

郷民生委員が参加

「地域の支えあい勉強会で、仲間づくりをはじめましょう」

* 別荘地ならではの住民組織「区民の会」・「サービスセンター」との連携協働を意識して始める

【郷民生委員 発案 & 関係者との交渉 & 実行！】

区内の住民向けアンケートを実施

【2019年 11月】 生活支援ボランティア 養成講座

郷民生委員がまずは参加し、取組みをまなぶ





【2020年 1月】初めての地域の支えあい勉強会

区民向けアンケートの結果

「協力したい」という気持ちのある方が集合

<最初から一貫して話し続けていること>

どのようなことなら、ムリなく始められるか？

ダイヤランドでは何が必要とされているか？



まずは
動いてみよう
じゃないの



【2020年 4月】

「かなみ暮らしの応援隊」の

(対象範囲：町全体)

協力会員としてまずは活動スタート

【2020年 7月】ダイヤランド向け 生活支援ボランティア養成講座

まなびと並行して
勉強会による検討、そして実践。



実践から見えてきたこと

通院や買い物のアシに
関する要望が多いのに、
どうしたらいいのかな…



<最初から一貫して話し続けていること>

どのようなことなら、ムリなく始められるか？

ダイヤモンドでは何が必要とされているか？



【2021年 11月】 運転ボランティア養成講座の受講



移動支援はリスクもあってハードルも高いし…とりあえず知識を得てみようというノリで参加から火が付いた！



**2022年 4月予定の
団体自主運営化に併せて
移動支援にも
取り組みばいいじゃない！**

2022年 4月スタートに向けて準備中…

総合事業も活用→訪問B

やる気としくみがかみ合ってきた



支援内容

- ① 日常的な家周りの手入れ(草取り)のお手伝い
- ② 話し相手・散歩の付き添い・ゴミ出しのお手伝い
- ③ 医療機関・薬局などにおける薬の受け取りのお手伝い
- ④ 生活必需品の買い物のお手伝い
- ⑤ 洗濯・日干し(取り込み・整理)のお手伝い
- ⑥ 軽微な修繕(電球交換等)のお手伝い
- ⑦ 寝具交換・布団干し・掃除のお手伝い
- ⑧ 調理のお手伝い
- ⑨ 買い物や通院等に同行する移動支援
(協力会員の車に利用会員が同乗)
- ⑩ その他 応相談

右記の主な事例でも、利用会員の体調・天候等によりお引き受けできない場合があります。

* 利用可能な公的サービスの活用を優先していただきます。

* 金融機関における入出金の代行には対応できません。(付き添いは可)

* 大がかりな庭の手入れ、大掃除・高級品洗濯等の通常専門業者が行うサービスには対応できません。

* 対面支援を原則とするため、留守宅での作業やペットの散歩等には対応できません。

【移動支援利用の場合】

* 運転できない状況(免許証返納・車がない等)にあり、乗降は原則としてご自身で可能な方を対象とします。

* 移動範囲は町内及び片道30分程の隣接する地域の施設や医療機関を基本とします。



③パサディナ区による 福祉自動車「パサディナ号」の運行

【2019年 8月】 パサディナ区による移動支援の開始



名 称

高齢者福祉交通システム

* 自治会による自主運行

運行状況

火・金の週2回

6のつく日 (さて、何ででしょうか!?)

「パサディナ号」
と呼んでいます!

函南町の公共交通機関

交通機関	事業者・路線
鉄道	JR（函南駅）伊豆箱根鉄道（仁田駅）
路線バス	伊豆箱根バス（函南駅～畑毛温泉、大場駅～函南駅）
自主運行バス	ダイヤランド南箱根巡回バス
タクシー	函南タクシー、風、伊豆箱根鉄道
自主運行タクシー	丹那区自主運行タクシー
福祉有償運送	NPO法人シーディーシー
その他送迎バス	函南中学校 伊豆函南病院及び伊豆平和病院 湯～トピアかなみ

自分も、運転をやめるときがくる。



立上げ当時の区長
小俣さん

区長だからこそ見えてくること
一人暮らしや高齢者のみ世帯が増えているなど

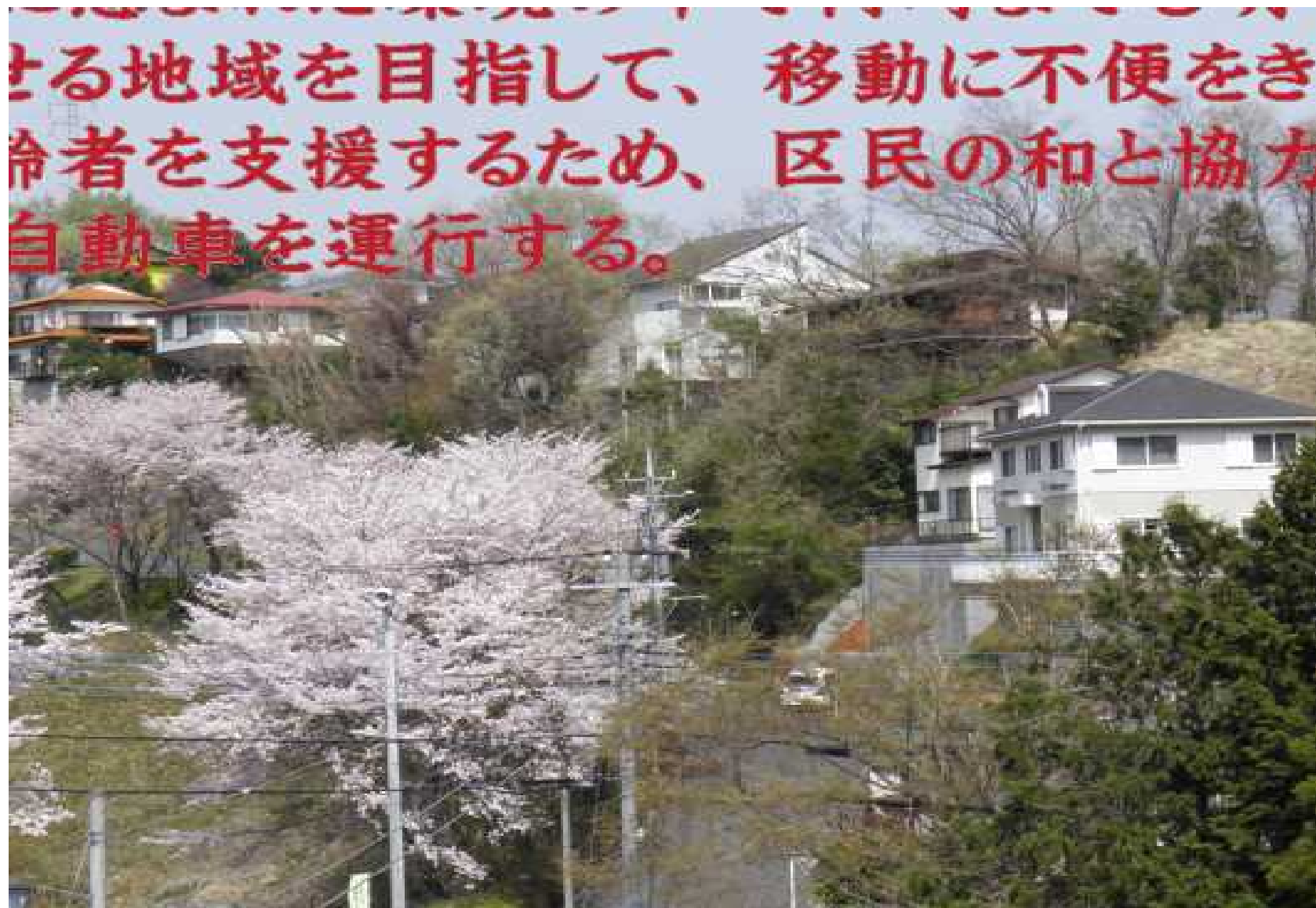
×

住民として体感している 地域性

中山間地に開発された分譲地
山坂が多く、歩いて中心街へ行けない



自治会として、自分たちの移動について
真剣に考える必要があるのでは？



とする地域を目指して、移動に不便をき
冷者を支援するため、区民の和と協力
自動車を運行する。

* 2021年12月22日函南町・函南町社協主催「これからの暮らし方と移動方法について考えるフォーラム」パサディナ区発表資料より

区内の調整、関係者との調整を丁寧に。

「立上げ経緯」(1)

- (1) 平成30年3月、区総会に於いて「高齢者交通システム」を開発することが承認された。
- (2) 平成30年6月、アンケート調査を実施した。
- (3) 平成30年6～8月に、区代表者会議で「区が中古車を購入する」ことを提案し、各方面から様々な意見や要望が出た。
- (4) 平成30年12月、再検討内容を代表者会議に提案し、賛成23・反対4で承認された。
- (5) 平成31年2月役場関係部門が「静岡陸運局」に「パサディナ方式」が「白タク」にならないことを確認いただいた。

「立上げ経緯」(2)

- (6) 平成31年3月、1年間検討した内容「中古車リース契約」を区総会で提案し、賛成多数で承認されたが、安全優先の意見が多く出た。
- (7) 平成31年4月、函南町への地縁団体認可申請が承認されて、当区が不動産（自動車）を所有又は借用できることになった。
- (8) 平成31年4月、安全優先のため「最新の安全運転システム」を装備した「新車リース契約」に変更し、区代表者会議に報告した。
- (9) 令和元年5月、ホンダ社とリース契約を締結。
- (10) 令和元年8月、「パサディナ号」運行開始。

* 2021年12月22日函南町・函南町社協主催「これからの暮らし方と移動方法について考えるフォーラム」パサディナ区発表資料より

乗る人、運転する人、調整する人・全て住民

「運行の内容」(1)

☀ 基本コース

利用者宅→(三島総合病院)→(山口医院)→(函南駅)→上沢公民館
→文化センター→大場駅→あおき→マックスバリュ→ビッグデー
→キミサワ→役場→利用者宅



☀ 運行日

毎週： 火曜日・金曜日
毎月： 6日・16日・26日

☀ 運行時間

9時・10時・11時・13時

但し、対応可能な場合は利用者の希望日時にも運行する。

「運行の内容」(2)

☀ 運営資金

- (1) 区一般会計繰入金
- (2) 函南町補助金
- (3) ガソリン利用者負担金
- (4) 任意謝礼金
- (5) 寄付金
- (6) バザー収益金

☀ 支援ボランティア

- | | |
|----------------|----|
| (1) 運転ボランティア | 8名 |
| (2) 予約受付ボランティア | 2名 |
| (3) 会計ボランティア | 2名 |
| (4) 応援ボランティア | 7名 |

* 2021年12月22日函南町・函南町社協主催「これからの暮らし方と移動方法について考えるフォーラム」パサディナ区発表資料より

ボランティアの増員

現在8名 → 10名

リース期間終了後の見直し

リース契約期間：令和元年8月～令和

町公共交通手段への合流

→ 町民の生活を支える

* 2021年12月22日函南町・函南町社協主催「これからの暮らし方と移動方法について考えるフォーラム」パサディナ区発表資料より

④行政による移動支援「くわ里号」・「ぬたタク」



* 2021年12月22日函南町・函南町社協主催「これからの暮らし方と移動方法について考えるフォーラム」函南町厚生部福祉課資料より

地域の支えあい勉強会（SC事業）

自分の地域について改めて考えてみる機会

- × 住民として体感している **地域性**
元々公共交通機関が通っていない山間地

移動支援の方法を選ぶポイント

福祉課

社会福祉協議会

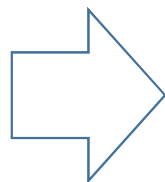
1. 利用しやすいしくみか
2. 運営するのはどこか
3. 費用
4. 道路運送法に適合した方法か

コロナ

移動支援の方法は何を選ぶか？

<区の皆さんの心配>

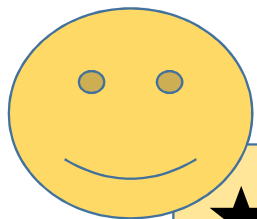
人口が少ない、道が狭い、
山間部で家が離れている



- 運転ボランティアでは
リスクが大きい、担い手不足
- バスが通らない



- ★ タクシーなら対応可能
 - ・ 狭い道・少人数 OK
 - ・ 停留所はつくらず、自宅から
- ★ 交通空白地域



民間企業等の協力

県タクシー協会
送迎システムの開発会社
自動車販売会社

桑原区・奴田場区は交通空白地

- ・ 町が主体となって、試験運行を実施
- ・ バスや電車（公共交通）を活かすため、**函南駅**を連結点に。



主な関係機関

- 奴田場区・桑原区の皆様、役員様、民生委員様
- 特定非営利活動法人 全国移動サービスネットワーク
- 国土交通省中部運輸局静岡運支局
- 静岡県タクシー協会
- 企業の皆様
- ◎ 社会福祉協議会
役場 函南町地域公共交通網形成計画、地域公共交通会議

令和3年度 試験運行するための準備

法律・制度

- <運輸局に相談>
- 道路運送法の実証運行について確認
 - 函南町地域公共交通会議で説明

福祉課

費用

- 介護保険の介護予防事業として実施
～社会参加は介護予防に効果的～
- 利用料は自己負担

社会福祉協議会

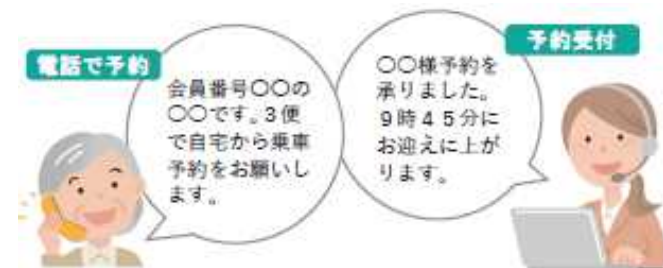
利用してくれるか？

- <区の民生委員の協力>
- 利用希望の高齢者、利用してほしい高齢者の人数
自宅の場所、利用目的、頻度、料金等の希望を調査

区の皆様、民生委員さん

くわ里号・ぬたタクの利用方法

- 1 福祉課に利用者会員登録申請をして
会員証をもらう
- 2 時刻表を見て利用の便の1時間前までに
専用電話に予約
「会員番号の〇〇です。3便で自宅から乗車予約します」
- 3 くわ里号が自宅に来て函南駅・山口医院へ
- 4 利用料300円をタクシー運転手に支払う



くわ里号・ぬたタクの利用上の注意

- ・ 土日・祝日、12月29日から1月3日は運行しません
- ・ 乗りたい便の1時間前に電話予約
- ・ 乗車時に会員証を見せる
- ・ 決まった時刻と特定の乗降場所
(自宅と函南駅・山口医院) のルートを1日往復 各10便運行
- ・ 5分経過し、連絡がつかない場合はキャンセル料が発生
- ・ 料金は、現金か高齢者タクシー利用券、高齢者運転免許自主返納支援利用券で支払い可
- ・ 利用者1人に付添1人各300円、利用者2人以上相乗りは1人200円



函南町で自分らしく暮らすには？

～これからの暮らし方は、自分で考えていこう～

個人への支援の必要性

福祉有償運送

ダイヤランド暮らしの応援隊

パサディナ号

かなみおでかけサポート

デマンドタクシー
くわ里号・ぬたタク

電車

タクシー

路線バス

みんなで守り育てる

移動すること、が
目的ではなく
移動して何をしたいのか
自分で考える

一つの方法で暮らしを
支えるのではなく
移動もいろいろな方法を
組み合わせる視点

地域に・個人に適した
移動はなにか

居場所へおでかけした・継続できた人の気持ちの変化



Aさん（女性）

難聴で補聴器を付けています。

今までは、人の中に入るのが億劫になっていたけれど、同じように補聴器の話をする相手も出来て良かった！

Bさん（男性）

以前は、介護保険の認定を受けヘルパーやデイサービスを利用していました。おでかけサポートでは、自分で毎週買い物に行くことができるので楽しみです。

昔少し触ったギターを居場所で弾いてみたり、家にいたらできないことができました。




Cさん（女性）

夫がおでかけサポートに参加しています。認知症の診断、要支援認定を受けていますが身体介護が必要なく、デイサービスでは合わない気がして居場所への参加を相談しました。

毎回帰宅すると「良い疲れがある」と本人も話しており、夜良く寝られるようになりました。

夫を自宅に一人にしては外出できずにいた私ですが、自分の時間も大事にしていきたいです。





今日も
検温・消毒・換気…
コロナ対策は
念には念を！

マスクの下は
笑顔いっぱい！
コロナにまけず
行ってきます！

かなみ
おてかけサポート

ご清聴ありがとうございました

令和4年3月2日
令和3年度移動サービス事例報告会

藤枝市における 福祉と交通の連携による 移動の支援施策

～多様な主体の課題意識とビジョンの共有に向けて…～

藤枝市都市建設部地域交通課
主幹兼新交通推進係長 松 下 武 人



藤枝市
Fujieda City

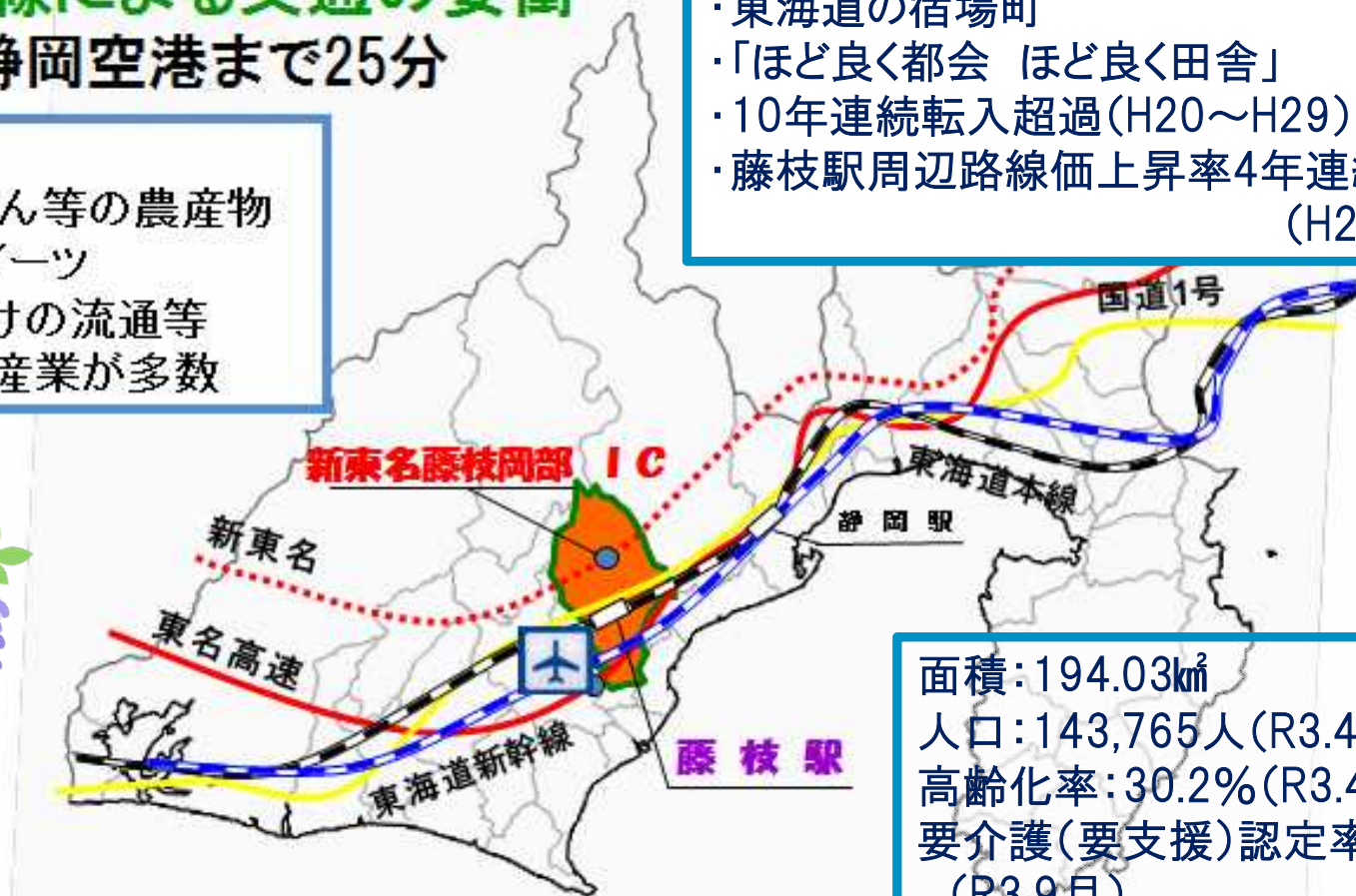
藤枝市の紹介

主要路線による交通の要衝 富士山静岡空港まで25分

産業:

茶やみかん等の農産物
地酒・スイーツ
乾しいたけの流通等
魅力ある産業が多数

- ・静岡県のほぼ中央、静岡市の西隣
- ・東海道の宿場町
- ・「ほど良く都会 ほど良く田舎」
- ・10年連続転入超過(H20~H29)
- ・藤枝駅周辺路線価上昇率4年連続県内1位(H27~H30)



面積: 194.03km²
人口: 143,765人(R3.4月)
高齢化率: 30.2%(R3.4月)
要介護(要支援)認定率: 15.9%
(R3.9月)

事例報告の内容

- 1 移動支援施策推進の背景
- 2 連携に向けた取組
- 3 今後の取組
- 4 まとめ



1 移動支援施策推進 の背景

(1) 生活支援体制整備事業の推進

超高齢社会を背景に抜本的制度改革

平成26年介護保険法改正

新しい介護予防・日常生活支援総合事業

生活支援体制整備事業の導入



協議体、生活支援コーディネーター(SCS)の設置

(1) 生活支援体制整備事業の推進

藤枝市

平成28年度第1層S C設置

平成29年度第2層S C設置（市社協）

- ・ 第2層協議体順次立上げ



地区社協（10地区）が母体
自治会長・民生委員などが課題を協議



(2) 地域課題の認識

地域住民の代表者の課題意識

高齢者の「足」



(2) 地域課題の認識

高齢者の「足」



ある地区社協会長の一言



「車を用意してくれたら
おらっちが支援するぜ」

地域住民の力で何とかしたいという思い

2 連携に向けた取組

(1) 移動支援の仕組みの検討

- 地域の「足」の課題についての確認
- 道路運送法の研究
- 住民ボランティアの運転による移動支援（実施可能モデル）の研究

地域包括ケア推進課 × 公共交通政策室

(1) 移動支援の仕組みの検討

市行政内部での研究

実施可能モデル

(市の支援事業案) に関する

運輸支局への確認

地域包括ケア推進課×公共交通政策室

(2) 多様な主体による移動支援の研究

実施に向けたハードル

＝多様な主体との意識共有・合意形成

- ・実施可能モデル（市の支援事業案）
に関する市役所庁内の合意形成

- ・実施可能モデルに関する
住民団体・関係団体との合意形成

(2) 多様な主体による移動支援の研究

「高齢者移動支援研究会」立ち上げ

庁内横串 市6部局11課室（※）が参画

（※）企画創生部広域連携課、財政経営部財政課、市民文化部協働政策課、市民活動団体支援課、交通安全対策室、健康福祉部福祉政策課、自立支援課、介護福祉課、地域包括ケア推進課、都市建設部公共交通政策室、産業振興部商業観光局商業観光課

多機関・団体連携

地区社会福祉協議会（5地区）、藤枝市社会福祉協議会、地域包括支援センター、市シルバー人材センターが参画

(2) 多様な主体による移動支援の研究

「高齢者移動支援研究会」での検討（H30年度）



地域の足の課題を確認



先進事例実施団体の取組研究



市の支援制度案の説明



道路運送法の制度を勉強



実施手法のアイデア検討



各地区の取組検討

(3) 移動支援研究会（H30）の成果

令和元年度から移動支援を後押しする事業として・・・
地域支え合い出かけっCARサービス支援事業
をスタート



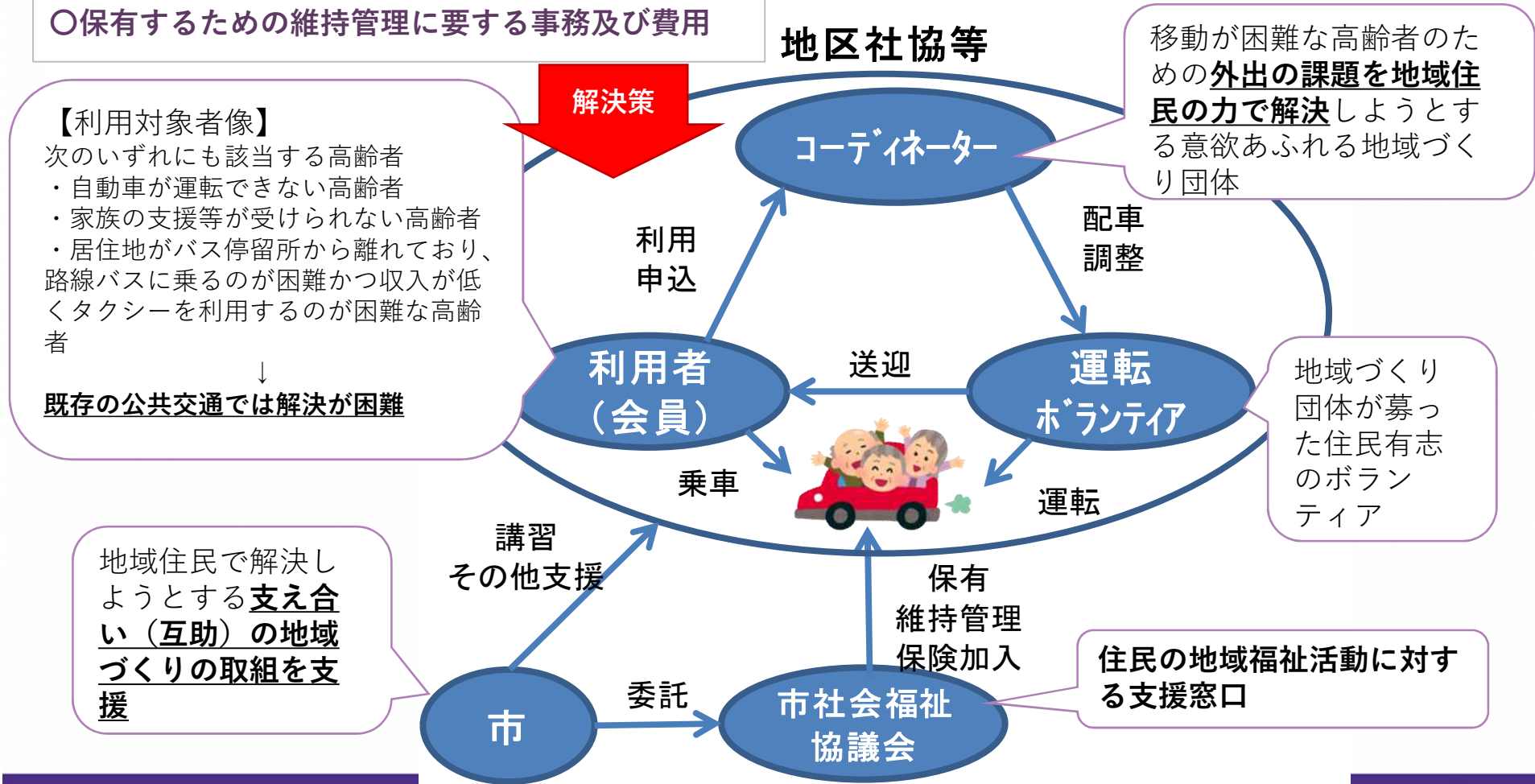
- ① **運転ボランティアによる移送への支援**
- ② **法人の地域貢献活動による移送への支援**



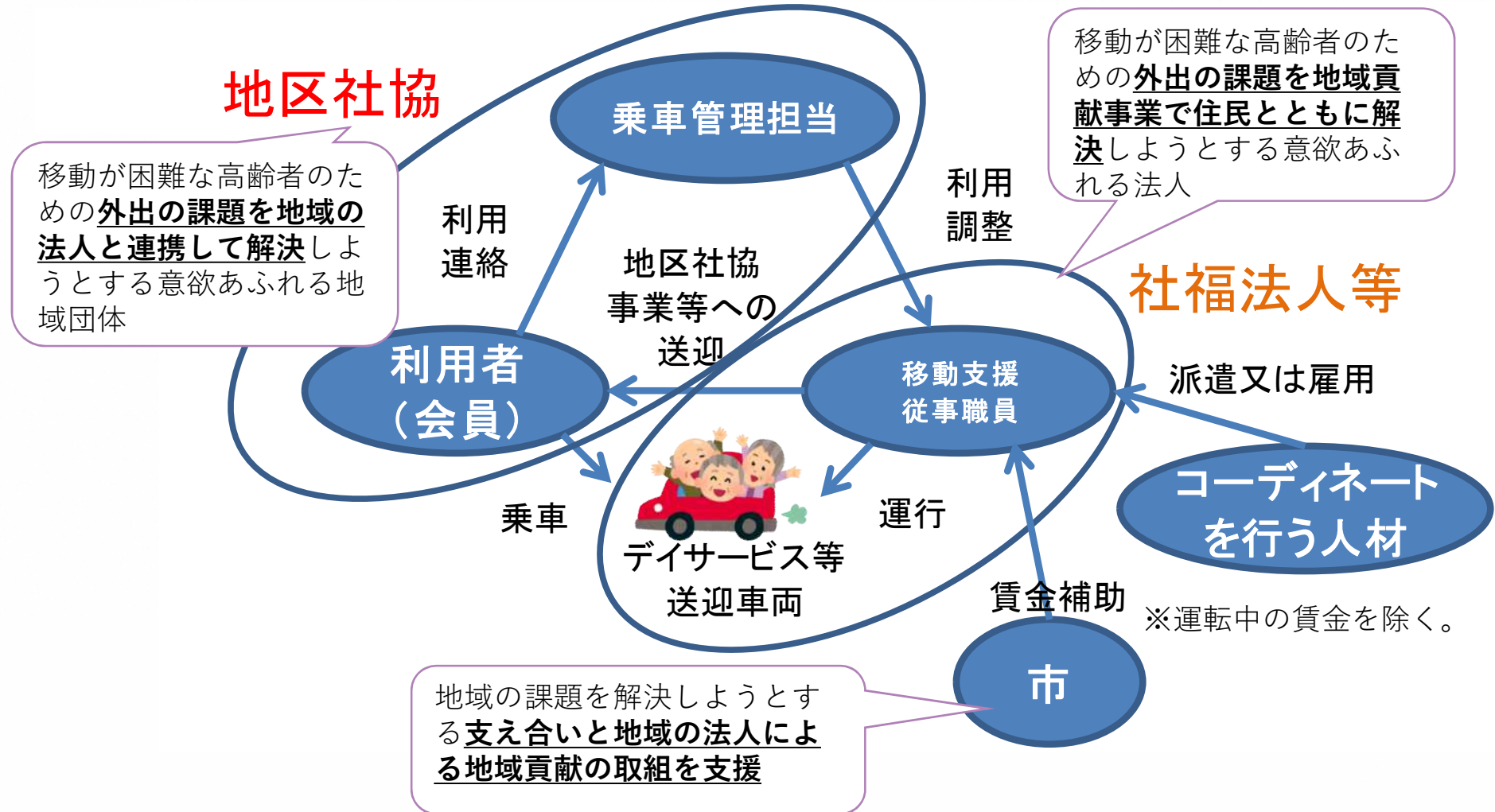
① 運転ボランティアによる移送への支援

地域住民の互助による移動支援の課題

- 車の導入経費
- 保有するための維持管理に要する事務及び費用



② 法人の地域貢献活動による移送



(3) 移動支援研究会（H30）の成果

★支援制度を活用した地域の取組の創出

- ① 運転ボランティアを組織化
西益津地区社協 R1.6.28～
葉梨地区社協 R1.10.1～
- ② 地域の法人と地区社協とが連携
瀬戸谷地区 R1.11.5～
月2回買い物ツアーを実施



★その他支援制度を活用せずに地域の法人と連携した移動支援も創出

(4) 移動支援研究会 (R2) の開催

令和元年度実施開始地区の事例報告等

市内全地区社会福祉協議会が参加・地域の動きを情報共有



(5) 移動支援研究会（R2）の成果

★支援制度を活用した地域の取組の創出

新たな運転ボランティアの組織スタート

大洲地区社協 R2.10.1～

高洲地区社協 R3.3.1～



高洲地区は新たな実施モデルとして
生活支援と一体的に実施

検討前に運輸支局に公共交通政策室と確認

高洲地区の 生活支援と移動支援の一体的な提供実施体制

一体的に実施

〈生活支援グループ〉

手んだい隊

有償ボランティアの活動



【生活支援の作業等】

ゴミ出し、庭木の手入れ、
草刈り、日曜大工など



【移動支援と一体的に
行う生活支援】

買い物などの際の車の
乗降、買い物中の見守り、
荷物持ちなどの支援

〈利用料〉

例 250円/回

〈利用料〉

例 250円/30分

〈移動支援グループ〉

足すとし隊

無償のボランティア活動



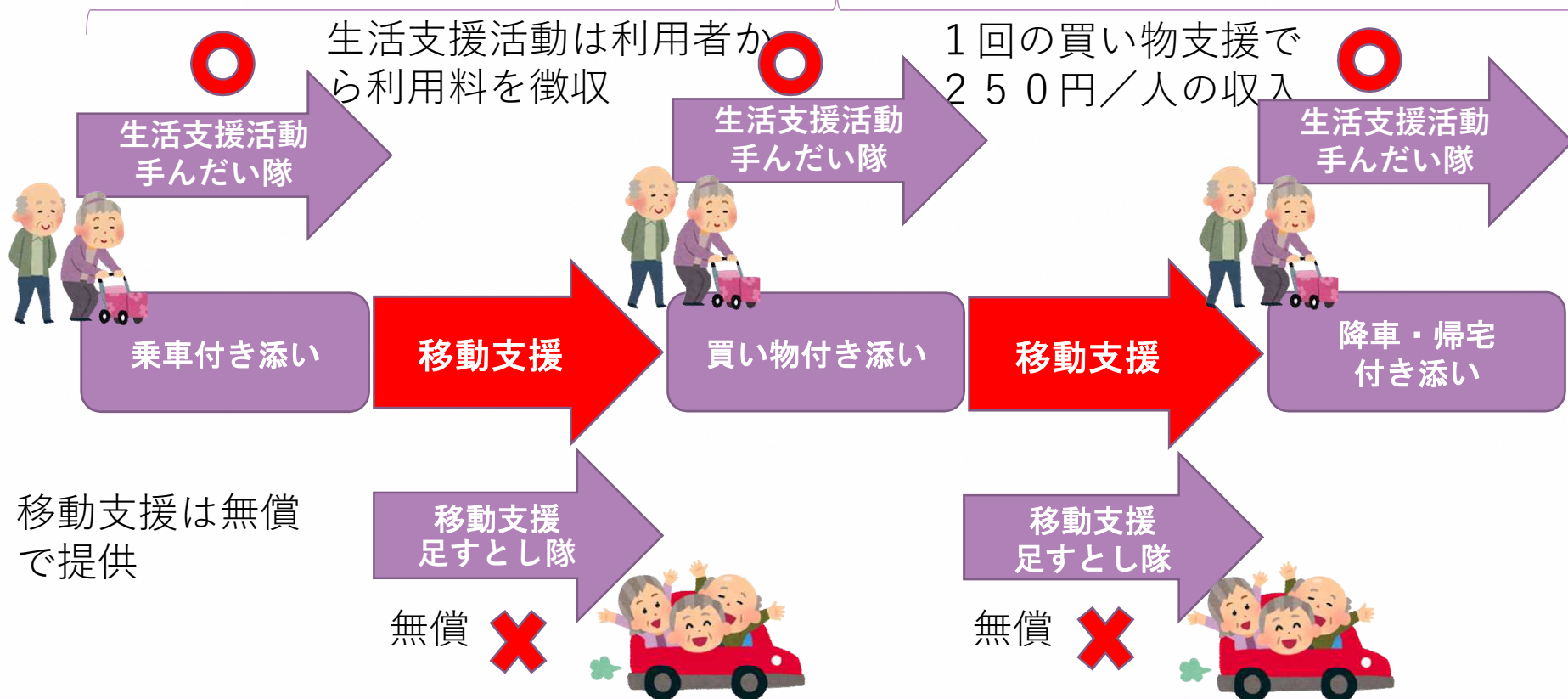
運転ボランティア

※運転に対する対価を
得ることはできない。

高洲地区

生活支援と移動支援の一体的な提供実施体制

利用料のイメージ



3 今後の取組

移動支援研究会（R3）の開催

令和2年度実施開始地区の事例報告等

地域の動きの情報共有
次年度の市の移動支援施策を情報提供



次年度の市の移動支援施策 1

自家用有償旅客運送事業支援事業

法人が実施している買い物支援事業など**地域貢献**のために**高齢者や障害者の移動支援サービス**を**自家用有償旅客運送事業**で実施する場合、法人や団体に対し、**運転手への謝礼、燃料費等必要な経費**について、**20万円**を上限に**補助**

【補助対象要件】

- ・自家用有償旅客運送事業の実施
- ・地域貢献事業と認められること
- ・自治会支部単位以上のエリアを対象とすること

自家用車（白ナンバー車両）による人の輸送



運転手への謝礼支払い
運送の対価の收受
寄付金の受入れ

自家用有償旅客運送事業
として実施可能

補助

燃料費、運転手への謝礼、通信費、消耗品費等の事業費を補助



サロン・会食会などの通いの場参加支援



次年度の市の移動支援施策2

「あし^{あし}足すと号」^{あし} 高齢者等外出支援デマンドバス 運行事業

住民ボランティア×市



出かけっCAR未実施地区の交通課題や地域をまたぐ移動など出かけっCARでは対応できない交通課題に対応

住民ボランティアの地域福祉活動として行う概ね5人以上の団体の高齢者等の外出支援について、市がデマンドバスにより移動支援を行う。住民ボランティアと市との協働による移動支援事業（許可登録不要、実費徴収のみの無償運送）。

市職員
(会計年度任用
又は再任用)

団体登録受付、予約受付・調整
バスの運行、実費收受

予約

住民ボランティアの役割

- ・団体登録手続
- ・参加者の出席確認
- ・予約、運行経路連絡、乗降支援、見守り
- ・実費の支払い

買い物支援



運行・送迎
地域はガソリン代（実費）を負担

健診受診支援



サロン・会食会などの通いの場参加支援



4 まとめ

(1) 福祉と交通の連携の肝

◎**地域福祉の視点は現場主義**であること
課題は現場にある

現場に近い団体・機関と連携すること

地域団体、市社協、

地域包括支援センターなど



地域住民の合意形成を大事にすること

◎**規制行政の趣旨と交通事業者の役割を尊重**すること

(2) 使命感を持って取り組む信念を！

行政職員や社会福祉協議会職員は、地域の課題に向き合い、解決に向けた取組を推進・促進するのが使命である。

課題解決に向け、様々な逆境や障壁を乗り越えるために、多様な主体と課題意識とビジョンを共通認識にし、強い気持ちで取り組んでいくことが重要である。

